

令和5年度 第1回 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議 議事録（発言要旨）

- 開催日時：令和5年5月15日（月）14：00～16：00
- 開催場所：西宮市役所 第二庁舎 6階 B601会議室
- 出席委員：狭間会長、清水副会長、樋口委員、畑田委員、山崎委員、津高委員、達川委員、藤田委員、曾我委員、張野委員、石丸委員、花田委員、北詰委員
- 事務局：（環境局）大西局長（欠席）
 - （環境統括室）鮫島室長
 - （環境企画課）鮫島課長（兼）
 - （環境学習都市推進担当）小田担当課長、中村係長、瀧川係長、田中係長、福島主査、鮎川主査、樋口副主査
 - （ゼロカーボンシティ担当）竹内担当課長、空中係長
 - （環境事業部）森川部長
 - （美化企画課）藪内課長、北野係長（欠席）
 - （事業系廃棄物対策課）畑課長
 - （環境施設部）鳥羽部長
 - （施設管理課）大田課長（欠席）
 - （施設整備課）高橋課長
 - （計画・調整担当）太田担当課長
 - （土木局）尼子局長（欠席）
 - （公園緑化部）藤原部長
 - （花と緑の課）船越課長、山本係長、小村副主査
 - （教育委員会）漁次長（欠席）

開会の挨拶

組織改正に伴う新委員を紹介する。（事務局）

1. 役員体制について（協議）

会長、副会長の選出

・立候補なし。（委員）

→会長は大阪商業大学教授の狭間委員、副会長は西宮市社会福祉協議会副理事長の清水委員にお願いしたい。（事務局）

→異議なし。（委員）

各部会委員の選出

- ・事務局が事前に調整し、資料1のとおり各部会の委員案としてまとめている。(事務局)
- 異議なし。(委員)

2. 周年記念事業について(報告)

「資料2 三都市宣言周年記念事業」について説明。(事務局)

- 資料2下部のにしのみや環境まちづくりフェスタについて。市民の選択がどのように環境やゼロカーボンへ向かっていくのか分かるような展示が必要ではないか。飲食ブースなどでもそこで扱っている商品がどのように環境に良いのかを学習・体験できるものがあればよいのではないか。(委員)
- 今までは「環境まちづくりフォーラム」として講演会形式で行ってきたが、今回は環境に興味を持っていなかった方々にも来ていただけるようなイベントにしたい。ゼロカーボン・資源循環・生物多様性の3つのテーマで、楽しむだけでなくごみの分別やプラスチックの削減など環境問題について気づき・学びが得られるものにしたい。今後は事業者とイベントの内容を詰めながら進めていく。(事務局)
- 事業者の選定について。ゼロからではなく市のほうからある程度方向性を決めて事業内容を示し、その中で各事業者の提案を競っていくのか。開催まで半年を切っているが、しっかりとした事業を行うための準備はどう考えているのか。(委員)
- 事業委託の内容としては現在公募型プロポーザルで記念事業の企画運営を任せる事業者を募集している。環境まちづくりフェスタの企画運営として、環境学習の視点も踏まえ、テーマをわかりやすく伝えるイベントの企画運営をお願いする。併せて環境学習都市宣言20周年の記念の展示物の作成も頼んでいる。(事務局)
- スケジュールの問題もあるがプロポーザル自体はもう始めているのか。(委員)
- 募集は開始しており、今月19日までに書類提出、今月末には事業者を決定する。(事務局)
- 「(仮称)にしのみや環境まちづくりフェスタ」について、このような催しは今までにも行っているのか。(委員)
- 初めての取り組みである。(事務局)
- 事業者に企画運営を任せることも初めてなのか。(委員)
- 初めてである。(事務局)
- 親子で来てもらうとのことだが小学生までが対象のように感じた。中学生以上の方々に来てもらうイメージがあまりない。中高生、大学生にも継続して興味を持ってもらう機会になりうると思うので、その年齢層を対象とした企画があればいいのではないか。(委員)
- 中学生以上の参加に関しては環境学習の点でも大きな課題である。環境まちづくりフェ

スタについてはまずは親子連れで来てもらえるものを目指したい。中高生については市内の活動団体と協力しながら来ていただけるものを検討していく。(事務局)

- EWC で学んだ中学生以上の方々がワークショップの運営を行ったり、トライやるウィークなどに便乗させたりできるとより人材活用ができるのではないかと思う。(委員)

3. 第3次西宮市環境基本計画の中間見直しについて(報告)

「資料3 第3次環境基本計画の中間見直しについて」について説明。(事務局)

- 説明の中で市民に向けたアンケートを実施するとあったが、加えて、市内の高校生に参加してもらってワークショップなどを開いて意見を聞いてはどうか。他市で計画改定の際に実施した事例がある。アンケートでは出てこないような自由な意見や、市外から通学している学生から市民以外の意見も取り入れることができる。資料2のフェスタなどでも高校生や大学生に取組を発表してもらってよい機会ともなり、さらに誇りをもって情報を発信してもらえるのでは。尼崎市で高校生がごみの散乱情報などをマップに落とすプログラムを作り、それを市の清掃に生かしているのを学会で発表していた。同様のことをしてはどうか。また、フェスタに出店する環境への取り組みを行っているお店などをフェスタの後市HPなどから見られるようにして、一過性ではなく後にも継続していけるようなものにしてはどうか。西宮市はエココミュニティの活動が素晴らしいので、この繋がりとコミュニティを通じて働きかけることで、行動の変容につなげていけるのではないか。フェスタでのゼロカーボン、3R、生物多様性という3つの柱がライフスタイルの転換というシフトに繋がるといふことと、さらにその3つが繋がっているという、そういった観点でライフスタイルの転換のきっかけになれば、20周年にふさわしい事業になり、また21年目以降の活動にもつながっていくのではないか。その観点を事業者の方に働きかけていただけたらと思う。(委員)

→若者の環境施策への参加は重要だと思っており、アンケートの実施に加えてワークショップについては検討していく。フェスタの3つの環境課題は繋がっていると考えておりライフサイクルの転換の重要性は共通のテーマであると思っている。企画運営事業者が決定次第、ライフサイクルの転換の重要性についても考慮し企画内容を検討していきたい。(事務局)

- 中学生以上の参加ということについて、中学生と高校生の連携および高校生と大学生の連携を同時に行っていくことが極めて効果的だと思う。それぞれの縦の連携を企画の中に取り込んでどうか。また、計画の見直しについて、中間見直しとはゴールに向かってどの程度進んでいるのかを確認することであると思う。進行度が見えるようなアプローチをすでに行っていて、今回の資料になっているのか、それともそういったアプローチはとっていないのか教えていただきたい。(委員)

→中間見直しについて行政内部でも議論をしている。環境目標についての見直しなどは達成度や社会情勢によるゴールの変更を踏まえた見直しになるが、環境基本計画に関しては行動に関する計画である。環境問題の解決のための行動変容や学びの部分の方向性についてマイナーチェンジを行いたいと考えている。(事務局)

●個別計画では達成度の確認を行っているのか(委員)

→環境基本計画の進行管理ということで、環境目標の達成状況を把握し、環境報告書でまとめている。(事務局)

●中高生を巻き込んだ活動について。コロナ前までは小中高生とともに活動を行っていたがコロナでほとんどなくなった。今年度からイベントを再開するものもあるが子供の参加については恐る恐る参加させている。今回の事業では多くの子供たちや学校も関わることだが難しいところもあるのではないかと思います。(委員)

→コロナが完全になくなったわけではないので、しっかりと留意していただければと思う。(委員)

●目標の達成について数値として示すことも必要なのではないか。また、計画の推進体制の見直しについてどういう風に見直しを行っていくのか。(委員)

→指標については、次の議題にある地球温暖化対策に関して法改正が行われており、地球温暖化対策実行計画の区域施策編を基本計画とともに見直していくため、そこで指標の設定を改めて行っていく。推進体制の見直しについて、現状ではパートナーシップ会議はPDCA サイクルの PDA を担っており、C については環境審議会と評価会議が担っている。これらは 3 つとも条例に基づく附属機関であり、他市にはないような体制となっている。その中でパートナーシップ会議については、20 人近い方々に参加、議論してもらう時間の確保が難しいということもあり、部会を中心とした運営に変えたほうがいいのではないかと考えている。また、環境基本計画と区域施策編の見直しについてパートナーシップ会議でも議論し、審議会でも審問、答申していただくといった 2 回議論の場がある状態だが、パートナーシップ会議ではより実践的な議論をする場にしてはどうかと考えている。体制についていろいろなパターンを検討しているところだが、いずれにしても効率的かつ効果的にご意見を頂けるような場づくりを目指して中間見直しのタイミングで推進体制の見直しを考えている。(事務局)

●パートナーシップ会議は PDA を担い、C は他の会議で行うとのことだが今回の見直しは他の会議のチェックをすでに受けたものだと考えていいのか。それともパートナーシップ会議だけで見直しの話が出たのか。チェックを受けないと見直しができないと思うが、進行管理の図が欲しい。この見直しはどこから出てきたものなのか。(委員)

→環境基本計画の 41 ページの図がパートナーシップ会議と評価会議、環境審議会の関係を表している。基本計画の見直しに関しては、P に当たる計画案をパートナーシップ会議で作成し、審議会で行い策定という流れとなる。ただし、普段はパートナーシップ会議は Do に重きをおいた実行組織、環境計画の推進部体組織という位置づけが強い。

現状は図の通り動いておらず審議会と役割が重複しているところもある。わかりやすい図を作成しながら効果的な会議の動かし方を探っていく。(事務局)

4. 各部会報告（報告）

・地球温暖化対策部会

「資料 4-1 令和 4 年度地球温暖化対策関連事業」及び

「追加資料 みんなのおうちに太陽光」

「資料 4-2 第二次西宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の中間改訂について」について説明。(事務局)

- 国や県による新しい目標が現状の目標から 10% 近く差があるが、令和 4 年度に行った対策と令和 5 年度に行う予定の対策に大きな差がみられない。中間見直しを行うだけでなく、さらなる対策案を持つべきでは。(委員)

→再生可能エネルギーの促進や調査、検討・研究・他市との比較を行っている。公共施設への再生可能エネルギーの利用など庁内で議論を活性化させている。現状、目に見える形での対策の変化はないが今後進捗状況などを報告できるように努めていく。(事務局)

→国や県からの数字の意味は、今までの対策の延長線上で数を増やすだけでは目標の達成ができないので全く違う概念で対策を進めるようにとのことだと思う。これを受けてどこまで対策を行っていけるか議論を進めるのが部会に課せられた宿題である。パートナーシップ会議でも先生方や市民の皆様からも意見がいただけたらと思う。他にも目標の達成に困っている自治体は多いので情報共有を行ってほしい。また日本だけに留まらず海外での取り組みなども調べて新たに西宮市に取り入れていくなどを行わないと目標の達成はほぼ無理だろうと考えている。私たちもちろん考えるが、市も最新事例を調べるなどして取り組んでいただきたいと思う。(委員)

・生物多様性推進部会

「資料 5 令和 5 年度実施事業（市民自然調査）」について説明。(事務局)

- 対象となる生物判別のヒントを掲載することはできないのか。(委員)

→パンフレットに同定の特徴のようなものが載っているのではないのか。(委員)

→パンフレットには小さい写真を載せるだけだが、HP に調査の注意についての動画や個別の特徴を掲載する予定である。パンフレットにも HP の QR コードを掲載する予定である。同様にスマートフォンの判別アプリなども紹介することを検討しており、親子で参加してもらいたいと考えている。(事務局)

- 小学生が対象とのことだが、尼崎市では中学生を対象に学校単位で参加してもらって

る。対象を中学生に広げていくことはしないのか。また、特定外来種は多くの目で早期に発見できることは大事だが、特定外来種は報告があった場合、確認が必要となる。その対応の準備も必要だと思う。(委員)

→尼崎市では誤報告も多かったと聞いている。(委員)

→中学校に関しては各学校の方に校長先生を通じて呼びかけを行っている。加えて理科の先生の集まりなどにも声をかけていく。また SDGs の取り組みを行っている企業も多いので企業のほうにも宣伝していく。また、特定外来生物のうちクビアカツヤカミキリは西宮市での発見はないが、隣の芦屋市ではすでに被害が出ている。クビアカツヤカミキリは桜にも害をなすため、桜の名所など多い本市では警戒が必要である。目撃情報があれば誤報の可能性があっても一つ一つ調査・確認を行っていく。(事務局)

・廃棄物減量推進部会

「資料 6-1 令和 4 年度廃棄物減量推進部会構成名簿」及び

「資料 6-2 指定袋制度の導入効果について」、

「資料 6-3 一般廃棄物処理基本計画の推進について」、

「資料 6-4 製品プラスチック一括回収の検討について」、

「資料 6-5 事務系古紙類の再資源化推進について」、

「資料 6-6 一般廃棄物処理基本計画の見直しについて」 について説明。(事務局)

●資料の 1 2 ページのプラスチックの一括回収について、今まで焼却していたものを回収しリサイクルするということは、リサイクルをサーマルからケミカルに変えていくということか。(委員)

→回収したその他プラと製品プラは容リ協へ持ち込み、再商品化してもらう。製品の内容に応じてマテリアルリサイクルするものやケミカルリサイクルするものに分別されるので市のほうでリサイクル方法を指定することはできない。マテリアルリサイクルされるような純度の高いものが回収されることを望んでいる。(事務局)

●焼却施設の方でプラスチックが入っていると燃焼効率がいいと聞いた。実際にはどうなのか。(委員)

→生ごみなどに比べてプラスチックはごみのカロリーが高いため熱の発生量が多く発電効率が良くなる。それを分別していくので燃えにくいものを燃やす焼却炉を考慮に入れつつさらに発電効率の良い施設を検討していく必要がある。本年度は新しい施設の整備計画も立てているのでご指摘の内容を踏まえて検討していく。(事務局)

5. その他 (報告)

「資料 7-1 エココミュニティ会議活動状況」及び

「資料 7-2 令和 4 年度環境学習事業の報告について」 について説明。(事務局)

6. 連絡事項

- 環境局長が出席予定だったが議会在長が長引き欠席となったため、代わって環境総括室長より挨拶。(事務局)
- 次回開催については、10 月ごろを予定している。(事務局)